

<GAP（農業生産工程管理）について>

【調査の目的】

GAP（農業生産工程管理）とは、安全・安心な農産物を生産するために生産者自らが出荷物への異物の混入防止、農薬や肥料の適正な使用、農作業事故の防止など、それぞれの生産工程ごとにチェックリストを用いて点検、評価を行う取組のことです。また、これらの取組を第三者が認証したものとして、GAP認証※があります。

農産物の取引の際に、小売店や量販店の一部では、GAP認証の取得を要件の一つとして求めているところもあり、この様な取組が進展することが予想されています。

県では、生産者のGAP認証取得のために支援を行っておりますが、GAPについては消費者や販売関係者の認知度が低いため、GAPの認知度向上のためのPR方法等が課題となっています。

このため、皆さんのご意見をお聴かせいただき、今後のGAPの取組推進の参考とさせていただきたいと思っております。

（農林水産部食の安全・地産地消課）

※ GAP認証とは

民間団体による認証には、代表的なものにグローバルGAPやアジアGAP、JGAPなどがあります。平成30年2月より、県が認証する「福岡県GAP認証制度」が始まっており、生産者による福岡県GAP認証の取得が進んでおります。

問1 あなたは、GAP（農業生産工程管理）について知っていましたか（選択は1つのみ）。

	令和2年 (n=367)	令和元年 (n=361)
1 知っていた	4.9%	4.7%
2 名前は聞いたことはあるが、内容までは知らなかった	15.3%	10.8%
3 知らなかった	79.8%	84.5%

・「知っていた」または、「名前は聞いたことはあるが、内容までは知らなかった」と回答した割合は5%向上している。

問2 (問1で「1」又は「2」を選択された方にお尋ねします。) どのようにして「GAP (農業生産工程管理)」をお知りになりましたか。次の中から【1つだけ】選んでください。

	令和2年 (n=73)	令和元年 (n=51)
1 新聞やテレビ、雑誌、インターネット等のマスメディアの報道で知った	61.6%	44.8%
2 店頭が表示や農産物の包装で知った	21.9%	15.5%
3 農業者から聞いた	2.7%	12.1%
4 東京オリンピック・パラリンピック大会の食材調達基準としてGAP認証取得が要件の一つとなっていることを報道等で知った	8.2%	19.0%
5 その他	5.5%	8.6%

- ・「新聞やテレビ、雑誌、インターネット等のマスメディアの報道で知った」が16.8%、「店頭が表示や農産物の包装で知った」が6.4%とそれぞれ向上している。
- ・「東京オリンピック・パラリンピック大会の食材調達基準としてGAP認証取得が要件の一つとなっていることを報道等で知った」は、10.8%低下している。

問2-2 問2で「5」を選んだ場合は、その内容を具体的に入力してください。

- ・仕事の業務の関係で知る必要があったから (50~59歳、男性、北九州地区)。
- ・授業で勉強した (20~29歳、女性、筑後地区)。
- ・農業経済の専門家から聞いた (30~39歳、女性、福岡地区)。
- ・身内が農業関係の仕事をしているため (20~29歳、男性、福岡地区)。

問3 あなたは、農産物を購入する時、何を重視しますか。次の中から【2つまで】選んでください。

	回答者数 (n=744)	割合 (%)	(%)						
			10代 (n=2)	20代 (n=81)	30代 (n=167)	40代 (n=177)	50代 (n=137)	60代 (n=109)	70代 (n=71)
1 食品の安全性が確保されている	182	24.5	0.0	27.2	24.0	23.7	22.6	26.6	25.4
2 環境に配慮して生産されている	11	1.5	0.0	1.2	2.4	1.7	0.0	1.8	1.4
3 価格が手ごろである	216	29.0	50.0	30.9	31.1	31.1	29.9	23.9	22.5
4 新鮮である	237	31.9	50.0	25.9	29.9	29.9	35.8	33.9	36.6
5 地元産である	91	12.2	0.0	13.6	11.4	12.4	10.9	13.8	12.7
6 その他	7	0.9	0.0	1.2	1.2	1.1	0.7	0.0	1.4

- ・農産物の購入する時に重視する項目は、「新鮮である」、「価格が手ごろである」、「食品の安全性が確保されていること」の順に割合が高い。いずれの世代においても「環境に配慮して生産されている」は、農産物の購入する時に重視されていない傾向である。
- ・世代別に比較すると20代から40代は、「価格が手ごろである」、50代から70代は、「新鮮である」を重視する傾向である。

問3-2 問3で「6」で選んだ場合、その内容を具体的に入力してください。

(主な意見)

- ・日本国産である(30~39歳、福岡地区、男性)。
- ・きのこやお茶やさつまいもなど、放射性物質を吸収しやすいものは、産地を気つけています。また作った人が見えるものなど、は安心する(40~49歳、福岡地区、女性)。
- ・旬の食材である(20~29歳、福岡地区、女性)。
- ・農産物(特に日常食する野菜類：果物等)の農薬の使用が、生産者責任となっている。出荷商品に農薬の使用状況などを明記する取り組みを、県として進めて欲しい(70歳以上、筑豊地区、男性)。
- ・信頼できる店で買う(50~59歳、福岡地区、女性)。

問4 あなたは、GAP認証を取得した農産物を購入したいと思いますか。

次の中から【1つだけ】選んでください。

	回答者数 (n=367)	割合 (%)	(%)						
			10代 (n=1)	20代 (n=43)	30代 (n=79)	40代 (n=85)	50代 (n=72)	60代 (n=52)	70代 (n=35)
1購入したい	120	32.7	0.0	27.9	27.8	30.6	33.3	42.3	40.0
2どちらかといえば購入したい	155	42.2	100.0	41.9	49.4	43.5	47.2	28.8	31.4
3あまり購入しようと思わない	13	3.5	0.0	9.3	7.6	0.0	2.8	1.9	0.0
4分からない	72	19.6	0.0	20.9	12.7	23.5	13.9	26.9	25.7
5その他	7	1.9	0.0	0.0	2.5	2.4	2.8	0.0	2.9

- ・「購入したい」、「どちらかといえば購入したい」と回答した割合は、世代を問わず、70%以上である。

問4-2 問4で「5」を選んだ場合は、その内容を具体的に入力してください。

(主な意見)

- ・農業をしている方に負担がない範囲で行っているなら買いたい。決まりにより、廃棄処分になったり、取引に極端な不平等感が生まれないようにして欲しい(40~49歳、女性、福岡地区)。
- ・GAPだけを判定の基準にはしない。産地等をみて考える(70歳以上、北九州地区、男性)。
- ・価格が安ければ購入したい(30~39歳、福岡地区、男性)。
- ・GAP認証を取得した農産物が、「新鮮」で「価格が許容範囲内」であれば購入すると思います(30~39歳、筑豊地区、男性)。

問5 あなたは、GAPの認知度向上のために、県からどのような支援が有効だと思いますか。
次の中から当てはまるものを【2つまで】選んでください。

	回答者数 (n=622)	割合 (%)	(%)						
			10代 (n=1)	20代 (n=68)	30代 (n=133)	40代 (n=143)	50代 (n=121)	60代 (n=92)	70代 (n=64)
1 消費者や販売関係者向けに、新聞やテレビ、雑誌、インターネット等のマスメディアを通じて情報発信をする	260	41.8	0.0	44.1	39.1	43.4	42.1	40.2	43.8
2 消費者向けに、GAP認証を取得した農産物を販売するスーパーや小売店で、GAPの取組について掲示・表示をする	252	40.5	0.0	36.8	42.1	42.7	37.2	41.3	42.2
3 販売関係者向けに、商談会等でGAPの取組についてPRを行う	45	7.2	100.0	13.2	6.0	6.3	9.1	6.5	1.6
4 販売関係者向けに、GAP認証を取得した農産物の産地に招待する産地ツアーを行い、GAPの取組を知ってもらう	53	8.5	0.0	5.9	8.3	6.3	9.1	12.0	10.9
5 その他	12	1.9	0.0	0.0	4.5	1.4	2.5	0.0	1.6

・「消費者や販売関係者向けに新聞やテレビ、雑誌、インターネット等のマスメディアを通じて情報発信をする」、「消費者向けに、GAP認証を取得した農産物を販売するスーパーや小売店で、GAPの取組について掲示・表示をする」の割合が高いことから、GAPの認知度を向上させるため、消費者、販売者向けのPRを強化、充実を図る必要がある。

問5-2 問5で「5」を選んだ場合は、その内容を具体的に入力してください。

(主な意見)

- ・GAP認定品からルール違反をださないこと (70歳以上、北九州地区、男性)。
- ・認証するための費用をかけているようじゃ意味がない。(30~39歳、福岡地区、男性)
- ・GAPのメリットをあまり感じませんのでわかりません。(30~39歳、福岡地区、女性)
- ・県が数量限定で構わないので、無料配布、生産者を招いてPRする (30~39歳、筑豊地区、男性)。
- ・小中学生の認知率を上げれば、その親世代の農産物購入者の認知が上がると思う。
例えば、芸人さんが耳に残る音楽と一緒にGAPのことを伝えるなど (30~39歳、筑豊地区、男性)。

問6 GAP（農業生産工程管理）について、これまでの設問以外にご意見がある場合は、その内容を具体的に入力してください。

（主な意見）

- ・店頭などでイベントの企画によるPRの強化（70歳以上、北九州地区、女性）。
- ・情報発信が増え、もっと触れる機会が増えればよいと思う（40～49歳、筑後地区、男性）。
- ・サンプルの配布などで消費者に知ってもらえるようにする（70歳以上、北九州地区、女性）。
- ・GAPという言葉は初めて聞いたので、それが認証された商品を購入するメリットがわからない。メディアは消費者に農産物の購入を勧めるだけでなく、生産者がどんな取り組みをしているのか伝えてほしい。（20～29歳、福岡地区、女性）
- ・認定手順の簡素化と認定後の取組状況をきちんと確認する・手順を確立すべきである（70歳以上、北九州地区、男性）。
- ・認証取得の費用を規模に応じて変えたほうがよい（50～59歳、福岡地区、男性）。
- ・農家がGAP認証し易くなる財的支援も必要（50～59歳、北九州地区、男性）。
- ・消費者には、とても良い取組だと思います。生産者がGPAに積極的に取り組めるよう費用や指導を含めサポートがあればいいと思います。それが充実して、消費者にも認知度が普及していけば、さらに素晴らしいことだと思います。（60～69歳、福岡地区、女性）
- ・福岡版のGAPに驚きました。気にして購入してみたいと思います（50～59歳、福岡地区、女性）。